シンポジウム「赤ちゃん学が発達心理学に期待するもの：発展的融和に向けて」．日本発達心理学会第26回大会，東京大学本郷キャンパス．

・福島治（2014）「自己概念の変動性を表す指標の比較」．日本社会心理学会第55回大会，北海道大学．

言語類型論の記述的・理論的研究

研究代表者　**高　田　晴　夫**

1．プロジェクトメンバー

高　田　晴　夫（代表者）
三　井　正　孝
藤　石　貴　代
秋　　孝　道
土　橋　善　仁
駒　形　千　夏
中　村　隆　志
磯　貝　淳　一
江　畑　冬　生
成　田　圭　市（協力者・教育学部）
本　間　伸　輔（協力者・教育学部）
朱　　継　征（協力者・経済学部）
大　竹　芳　夫（協力者・経済学部）
池　田　英　喜（協力者・国際センター）

2．プロジェクトの概略（2014年４月１日～2015年３月31日）

言語類型に関わる基礎研究について，以下の共催者とともに，研究会等で，

議論・検討を行った。

新潟大学言語研究会（NULC）

新潟大学コアステーション言語科学研究センター

現社研プロジェクト「言語の普遍性と個別性」

現社研プロジェクト「現代日本語の認識的モダリティに関する研究」

現社研プロジェクト「多重知能理論に基づく英語教育に求められる言語調査についての研究」

3．プロジェクトの成果

1．平成26（2014）年５月13日（火）

1．発表者：山田陽子（新潟大学経済学部准教授）

題目：「談話の構築に関与する諸要素 ― 構文の談話機能と聞き手が持つ情報に焦点をあてて ―」

2．発表者：ジョージ・オニール（新潟大学教育・学生支援機構教育支援センター准教授）

題目：「国際通用語としての英語における子音連結と明瞭性の関係・The relationship between consonant clusters and Intelligibility in English as a Lingua Franca」

2．平成26（2014）年７月30日（水）

1．発表者：金香（新潟大学大学院現代社会文化研究科博士前期課程二年）

題目：「助動詞“能”，“会”，“可以”に関する研究 ― 能力を表す際の相違点を中心に ―」

2．発表者：谷恵中（新潟大学大学院現代社会文化研究科博士前期課程二年）

題目：「「文接続」から「談話接続」へ ― 中国語方向補語“起来”の語用論的な機能を中心に ―」

3．発表者：シツ　オウ（新潟大学大学院現代社会文化研究科博士前期課

程二年）

題目：「中国語の補語に関する研究 ―“～上”と“～起来”の使い分けを中心に ―」

4．発表者：岡田 祥平（新潟大学教育学部准教授）

題目：「現代日本語の音韻体系における〔トゥイ〕音の位置 ― 借用語のカタカナ表記から考える ―」

3．平成26（2014）年10月23日（木）

1．発表者：ホップ・アンニャ（新潟大学教育・学生支援機構　准教授）
駒形千夏（新潟大学人文社会・教育科学系　助教）

題目：「実践的外国語運用能力習得のための互恵的学習環境の創造 ―― 初修外国語チャット」

2．発表者：ジョージ・オニール（新潟大学教育・教育支援機構 准教授）

題目：「国際通用語としての英語における発音の明瞭性の先制的修復と反応的修復」

4．平成26（2014）年12月16日（火）

1．発表者：福田一雄（新潟大学人文社会・教育科学系　名誉教授）

題目：「モダリティとは何か ― 日英語の比較 ―」

2．発表者：李英（現代社会文化研究科　博士後期課程１年）

題目：「推論の手掛かりからみたダロウ」

5．平成27（2015）年３月17日（水）

1．発表者：谷恵中（新潟大学大学院現代社会文化研究科博士前期課程二年）

題目：「中国語の方向補語“起来”について ― “起来”の意味拡張現象を中心に」

2．発表者：尹美蓮（新潟大学大学院現代社会文化研究科博士後期課程二年）

題目：「“V起来A”と“V着A”の使い分けと意味分析について」

4．講演会

1．新潟大学言語学研究会

・主催：新潟大学人文社会・教育科学系学系研究支援経費（学系基幹研究）によるプロジェクト「語順変換現象と話題・焦点表現の統語的認可に関する実証的・理論的研究」（代表　本間伸輔）

・共催：新潟大学人文学部プロジェクト「言語類型の記述的・理論的研究」

・共催：新潟大学人文社会・教育科学系附置　言語科学研究センター（代表　高田晴夫）

・日時：平成26年12月19日（金）16時25分～17時55分

・会場：総合教育研究棟D棟大会議室

・講師：神田外国語大学大学院　教授　遠藤　喜雄先生

・題目：日本語と英語の理由疑問文について

5．2014年４月１日～2015年３月末までの教員の研究成果一覧（ア順）

秋　孝道

論文

1．「日本語の連用形転用名詞のアクセント変化と英語のゼロ接尾辞分析について Miyake's（2011）Generalization and Zero Affixation」『人文科学研究』 第135輯, 47-58.（平成26（2014）年10月）

磯貝淳一

論文

1．「『東山往来』の文章構造 ― 書簡文体と注釈文体とを繋ぐ問答形式 ―」,『人文科学研究』第135号，新潟大学人文学部，平成26（2014）年10月，49-76

2．「和化漢文用字法に見る『問い』と『疑い』― 古記録・文書における判定要求の一用法から ―」,『ことばとくらし』第26号，新潟県ことば

の会，平成26（2014）年10月，15-23

講演

1．「接続表現からみる日本語文章史」，平成二十六年度新潟大学人文学部国語国文学会（新潟大学：平成26（2014）年９月）

口頭発表

1．「『伊曽保物語』の文体再考 ― 天草版・国字本の比較から ―」，新潟県ことばの会平成二十六年度研究集会（新潟大学：平成26（2014）年11月）

2．「前田本『三宝絵』の文体 ―「漢字仮名交り文の真名化」の意味を問いなおす ―」，広島大学国語国文学会平成二十六年度研究集会（広島大学：平成26（2014）年７月）

その他

1．「『書き方』はどのように学ばれてきたのか:教科書としての往来物の編纂と文体の問題（平成25年度新潟県ことばの会講演要旨）」，『ことばとくらし』第26号，新潟県ことばの会，平成26（2014）年10月，51～53頁

江畑冬生

論文

1．「統語的派生再論」 『人文科学研究』 第135輯, 1-20.（平成26（2014）年10月）

2．「サハ語における肯否の対称性と否定を含む派生」 『北方言語研究』第５号, 5-13.（平成27（2015）年３月）

講演会

1．「言語で巡るシベリアの旅 － 北方の人々のことばと暮らし」 新潟大学.（平成26（2014）年７月）

口頭発表

1．Double accusative causative and impersonal passive in Sakha（Yakut）. “The 17th International Conference of Turkish Linguistics” Rouen University,

France.（平成26（2014）年９月）

２．The reflexive and passive suffixes of Sakha（Yakut）. “System Changes in the Languages of Russia” Institute for Linguistic Studies, Russian Academy of Sciences. Petersburg, Russia.（平成26（2014）年10月）

３．「サハ語における肯否の肯否の対称性と否定を含む派生」 日本言語学会第149回大会ワークショップ 北東ユーラシア諸言語における否定構造： 愛媛大学.（平成26（2014）年11月）

４．「ウワロフスキーによる最古のサハ語テキスト」 北方の言語と文化にかんする国際シンポジウム： 北海道大学.（平成27（2015）年１月）

共著書

１．「水・氷・洪水に関するサハ語」檜山哲哉・藤原潤子（編）『シベリア温暖化する極北の水環境と社会』 350-353. 京都大学学術出版会.（平成27（2015）年３月）

高田晴夫

講演

１．「Quelques regards sur des mots composés à valeur processive du type [NV] N en japonais」（「日本語の過程的価値をもつ [NV] N 型合成語について」）, パリ第13大学 LDI 研究所セミナー（平成27（2015）年３月）

土橋善仁

論文

１．“Prosodic Domains and the Syntax-Phonology Interface”, The Routledge Handbook of Syntax（Andrew Carnie, Yosuke Sato, and Daniel Siddiqi eds.）, pp.365-387（平成26（2014）年４月）